

「彼女は特異点でしたから、どんな時間への干渉も彼女の存在に影響しません、不死身という意味とは違いますよ。」

【種別】	用語
【用語】	特異点
【よみがな】	とくいてん
【使用話】	第1話～

どんな時間の干渉にも影響を受けない、特別な存在のこと。

それと同時に、特異点は電王に変身することが出来る希少な存在とされている。

ただし、[オーナー](#)の言葉が真実なら、この特殊性は時間の流れに対してのみ意味を持ち、物理的なダメージ(殴る、斬るetc)で死ぬ点は普通の人間と同じため、不死身というわけではない。

ただし[例外](#)もある

通常、[イマジン](#)が人間に憑依すると人間からはコントロールできないはずなのであるが、特異点である良太郎は憑依した[モモタロス](#)をコントロールできるようだ。またコントロールされてしまう事をモモタロスは不思議がっていた。が、特異点であることを聞かされた直後こそ良太郎に憑依してしまった事を後悔したが、結局はイマジン相手に派手に戦えることの方が良かったようで、その後は特に後悔していない。

[ウラタロス](#)は良太郎が特異点であることを知りつつ、あえて[メリット](#)に釣られて憑依してきた。

また、[本条](#)を救って虫の息の[キンタロス](#)を再憑依・救助できたのも、特異点だからこそ可能なことと考えられる。

本来の使命を遂行するイマジン達にとって不都合な存在なのか、特異点を潰そうとしている。

[リュウタロス](#)に対し「良太郎を殺せば時の列車の車掌にする」と[持ち掛けた人物](#)も存在している。

[第10話](#)でハナも特異点であった事が判明、[ハナ](#)のいた[消滅した未来](#)で何があったのかは不明、イマジン達の[時間改変](#)の影響により未来が失われるが、ハナは特異点だった為に現在も存在。だが、存在していた時間が消滅したためデンライナーが彼女の現在の居場所となっている。

[第39話](#)で[侑斗](#)を抹殺したため大幅な[時間改変](#)がおこなわれ、それまでながれていた時間に大きな変化が起こったが、特異点である良太郎と[コハナ](#)にはそれまでの記憶が存在。共に愕然とする。

不正な時間改変を受け付けない為、時間が消滅、または大規模な改変を受けてしまった時にその時間を復元する為の最終安全装置のような役割を持つ。しかしオーナーによると、特異点自身が己の時間を消すような改変を行った場合、その歪みが時間に及ぼす影響は計り知れない、との事。しかし良太郎やハナと同じ特異点である[とある人物](#)のケースでは、前述の説明とは逆に、時間の流れに今にも弾き出されそうな位に極めて不安定な状態であった事から、まだこの存在については未解明な部分も数多く残っていると言える。

「さらば電王」ではそのことに目を付けた[死郎](#)が良太郎を利用して時間をひっくり返そうとしていた。

【関連するページ】

- [仮面ライダー電王](#)
- [野上良太郎](#)
- [用語](#)
- [第2話](#)
- [第6話](#)
- [モモタロス](#)
- [ハナ](#)
- [第1話](#)
- [オーナー](#)
- [謎と伏線](#)
- [ウラタロス](#)
- [2007年](#)
- [使命](#)
- [消滅した未来](#)
- [07 デメリットなくしてメリット無し](#)
- [第40話](#)
- [カイ](#)
- [劇場版3 さらば仮面ライダー電王 ファイナル・カウントダウン](#)
- [野上幸太郎](#)
- [時の列車](#)
- [門矢士](#)
- [野上良太郎\(少年\)](#)
- [超・電王トリロジー Episode Yellow 登場人物・出演俳優](#)
- [超・電王トリロジー Episode Blue 登場人物・出演俳優](#)
- [超・電王トリロジー Episode Red 登場人物・出演俳優](#)

